

「五体満足。」

作 工藤 大嘉

○登場人物

加藤葵 22歳

交通事故により下半身不随になり、生活保護を申請する。

須田緑 22歳

葵の同級生。高校卒業後、生活保護課で働く。

加藤彩 27歳

葵の姉。高校を中退し働き、葵を育てる。現在は結婚して幸せな生活を送っている。常にゴマ油を持っている。

及川典子 32歳

会社で受けたセクハラが原因でうつ病になってしまい、生活保護受給者となる。

斉藤理恵 21歳

ア。パレル店員。ドライブ中に葵を轢いてしまう。

○一章一話「イメージ」

葵 生活保護に対するイメージ。働かないクズ。不正受給。税金泥棒。弱者。憶測が憶測を呼び形成されるイメージ。イメージ。

モブ イメージ、イメージ、イメージ、イメージイメージ。

葵 あなたは、どんなイメージ？

○一章二話「ホームヘルパー」

面接官 それでは最後に自己PRをお願い致します。

典子 はい！私は昔から人と接することが好きなので、利用者様とのコミュニケーションやご家族様との対応もスムーズに行えると思います。また困難なことにも積極的に向き合う前向きさも、私の強みです。限られた時間の中でも、常に相手の立場で考え、対応することで、利用者様やご家族様の笑顔が引き出せると思っています。

面接官 ありがとうございます。以上で、面接は終了です。お気を付けてお帰り下さい。

典子 はい！ありがとうございます！失礼致します。

ナレ 及川典子、高校卒業後、ホームヘルパーとなる。

ナレ 元々、世話好きな性格だったため、仕事も順調に進んでいた。

典子 はい、ご飯できましたよ。

典子 よいしょ、たべれましたねー。偉い偉い。どう、おいしいですか？

爺 まあまあ。

典子 あら、まあまあですか。普通が一番いいですからね。

爺 及川さん、ちよつと肩もんでくれんかね？

典子 もう、しょうがないですねー。

ナレ 順調に進んでいた、の、だ、けれども。

典子 どうしました？

爺 いつもありがとうね。

典子 いえいえ。

典子 お仕事ですから。

爺 典子の手を自分の陰部に引き寄せる

爺 典子さん、どうしました？

典子 いえ、なんでもありません。

間

典子 ごはん、たべましょう、ごはん。

息子 ただいま。

典子 あ、お帰りなさいませ。

息子 あー、及川さんいつもありがとうございます。

典子 いえいえ、お仕事お疲れ様です。

息子 及川さんこそ、お仕事お疲れ様です。大変でしょう。介護職。
典子 ええ、まあ。
息子 肩こりとか凄いいんじゃないですか。
息子 ほら、やっぱり。凝ってる。
典子 ああ、すいません。もう大丈夫ですので。
息子 遠慮しないで、ね。いつも親爺の世話してもらってるし。
典子 あ、すいません。ありがとうございます。
息子 ああ、背中も凝ってますね。
典子 ああ、本当ですか。
息子 頑張りすぎですよ。たまには息抜きしないと。
典子 いやっ！
息子 え？
典子 あ、いや、なんでもありません。
息子 まだ終わってませんよ。
典子 やめてください！
息子 え？
典子 え？いや、その。
息子 いや、そんなつもりじゃ。
典子 ホームヘルパーはそういう仕事じゃないので。失礼します。
息子 それから、典子に対するセクハラは無くなった、の、だ、がしかし
典子 ほら、ちゃんとたべてください。
息子 親爺、最近全然ご飯たべないんですけど。
典子 はい。私も心配してて。
息子 あんたの問題じゃないの？
典子 え？
息子 あんたのやり方が間違ってるんじゃないの？
息子 うわ、まず。こんなの親爺食べられないよなあ。
典子 いや、食事は前と同じメニューで作っているの、体の方に問題があると思うんですけど。
息子 いやいや、自分の失敗を親爺のせいにするの？
典子 そういうわけでは。
息子 もう、帰っていいですよ。私、ご飯作るの。
典子 失礼します。
ナレ 依頼主からのパワハラを受けるようになった。
典子 準備をする。玄関までいく。手を伸ばす。体が動かない。深呼吸。
もう一度。手を伸ばす。もう一度。もう一度。

ナレ 手はもう伸びなかった。そして、

典子 私は生活保護受給者になった。

○一章三話「生活保護」

緑 生活保護とは、資産や能力等すべてを活用してもなお生活に困窮する人に対し、困窮の程度に応じて必要な保護を行い、健康で文化的な最低限度の生活を保障し、その自立を助長する制度です。ただし、支給される保護費は、地域や世帯の状況によって異なります。そしてその費用は国民の税金から賄われています。

典子 お、きたきたきた。

緑 彼女の名前は及川典子32歳。会社で受けたセクハラが原因でうつ病になってしまい、現在は生活保護を受けて生活しています。

典子 こい、こい、こい！

ケンシロウ ラオウ、時が待っているぞ。

ラオウ 天に滅せい、ケンシロウ！

ラオウ このラオウの全霊の拳が。

ラオウ ケンシロウ！

ラオウ 既に見切っておったか…：我が拳にはもはやお前を砕く力など残っておらぬということを。

ラオウ 見事だ、弟よ。

ケンシロウ 兄さん。

ラオウ このラオウ天に帰るに人の手は借りぬ！我が生涯に一片の悔いなし。

ケンシロウ ラオウ、俺にはあなたが最大の強敵だった。

典子 ひゃっほー！

緑 もう一度、言います。生活保護を受けて暮らしています。

オバサン1 え、うそ、やだ、及川さんじゃない？

オバサン2 え？どこどこ？

オバサン1 ほら、あそこ！やだやだ！

オバサン2 あ、ほんとだ、あの人、生活保護受けてるんでしょ？やだー。

この前山田さん、区役所に並んでるの見たって。やだー。

オバサン1 そうなのよー、私達の払った税金で、やだー、暮らしてるのよ。やだー。

オバサン2 あ、だめ、信じられない。やだー、血圧上がってきた。

オバサン1 やだー、上がるよねー、血圧。やだー。

オバサン1 うわ、やだ、めっちゃ見てる。

オバサン2 やだー。

○一章四話「同級生」

典子 なんなの、生活保護でパチンコしちゃいけないの。

緑 及川さん、お待たせしました。わざわざお越し頂きありがとうございます。

典子 で、何ですか？わざわざ役所まで呼び出して。

緑 ハローワーク、いきましたか？

典子 ……

緑 生活保護というのは、人が生活していて病気になったり、働けなくなったりしてお金に困った時、それでもちゃんと人間らしい生活が送れるように国がその足りない分のお金を出します。そのお金は国民の税金です。

典子 あなたの給料もその税金じゃないですか。

緑 ……そうです。

典子 あなたがパチンコやってたれか文句言いますか？

緑 ……

典子 生活保護を受けてる人は最低限度の生活だけしなきゃいけないの？

緑 ですから、生活保護はあくまで最後のセーフティネットとして支給されるわけですから。私達としては1人でも多く自立して頂くことが仕事なんです。

典子 一度、生活保護で暮らしてみたらどうですか？

緑 及川さん！

緑 私はこのような生活保護受給者を約110世帯受け持っています。申し遅れました。生活保護課に務めております、須田緑です。

葵 あのー、生活保護の申請はこちらで宜しいでしょうか？

緑 はい、こちらで受付しています。

緑 え？葵？

葵 緑？？

緑 葵！

同級生1・2 位置について、よーい、どん！

緑 小学校では毎年リレーの選手！成績優秀！男子からも女子からも好かれるカリスマ的存在の、あの葵が！？クラスのパイオニアだったあの葵が？！生活保護に？！

葵 ほ、今日は生活保護の申請で来ました。宜しく願います。

緑 あ、葵、久しぶり。

緑 あれ、覚えてないかなあ？葵ー？緑だよ。

間

葵 生活保護の申請をお願いします。

間

緑 あ、…かしこまりました。それでは、書類を準備するので少々お待ち下さい。

葵 許せなかった。私がパイオニアだった学生時代に教室の隅っこにいた緑に弱者に見られるのが。どうしても許せなかった。

○一章五話「扶養紹介」

緑 でも……

葵 お問い合わせ。

緑 こちらの扶養紹介が出来なければ生活保護費は支給されません。

葵 なんとかならないの？

緑 よつほどの事情がない限りは、基本的には認められていないので。

葵 ……わかりました。

緑 お姉さんとなんかあったの？

葵 失礼します。

緑 葵！

葵 離して。

緑 私、出来ること、なんでもするから。

○二章一話「交通事故」

葵 あの事故さえなかったら、私は……

理恵 あははは、工藤さん、ほんとおもしろーい！ハゲるー！まじ、ハゲる！

工藤 まじでー、嬉しすぎておれもハゲるー！

ライト1 ハゲるとは、テンションが上がった時に使用する若者言葉である

工藤 ばさっ！

ライト2 バラです。

理恵 え？なにになに？

工藤 来る途中、キレイな花が咲いてたからプレゼントしようと思ってたんだけど。

理恵 ……うん。

工藤 渡せなくなっちゃったなあ。

理恵 どうかしたの？

工藤 だって、もっと綺麗な花がここに咲いてたから。

間

理恵 ハゲるー！

クラッシュする

理恵 え？うそ？

間

理恵 まじ、ハゲる。

葵 あの事故さえなかったら、

理恵 私は……

○二章二話「振り込み」

理恵 ごめんください。

葵 はーい。

理恵 齋藤です。

葵 ……
理恵 入っても大丈夫ですか？
葵 もう、いいですよ。来なくても。
理恵 いや、そういうわけには。
理恵 いや、でも。
葵 なんです？
理恵 お怪我の具合とか、も心配ですし。
葵 怪我の具合？
理恵 はい。
葵 ああ、そうですか。
理恵 でも、一人で生活できるようになったんですね、よかったです。
葵 お陰様で。
理恵 いえいえ、私は何にもしてませんから。
間 葵 もう、大丈夫ですよ。帰って頂いて。お金だけ振り込んで頂ければ大丈夫ですの
理恵 でああ、そうですか。
間 葵 なんなんですか？
理恵 あ、いや、その…
葵 暇なんですか？
理恵 いえ、そういうわけでは。
葵 じゃあ、何？
理恵 実は今月の分が支払えそうになくて。
葵 ……
理恵 すいません、来月には必ずお支払い致しますので。
葵 毎月三万ですよ？
理恵 ……
葵 甘え過ぎじゃないですか？こちらも裁判沙汰にはしたくなかったので示談にさせ
て頂きましたけど。
理恵 すいません。仕事増やそうとしてるんですけど、なかなか…
葵 そうですか。
理恵 でもこの前受けた居酒屋は大丈夫そうでした。ですのでこれからは必ず毎月お支
払い致します。
葵 私、もう立てないんです。あなたみたいに普通に仕事も出来ないんです。

理恵 すいません。

葵 来月は宜しくお願いします。

理恵 はい。

葵 もう、帰って下さい。

葵 玄関の扉を開けようとするが、転んでしまう。

理恵 大丈夫ですか？

葵 大丈夫です！

理恵 え、でも…

葵 大丈夫です。あなたがさつきおっしやった様に、私、一人で生活できるようになったので。

理恵 すいません、また来ます。

葵 もう、立てないんだよ。

○二章三話「人という字」

緑 えー、みなさん、こんばんわあ。えー、唐突ですがこの字知ってるかな？

そう、人という字です。この人、という字どういう意味分かる人？

人という字は人と人が互いに支え合って、出来てるんですねえ。

葵 母の言葉を思い出した。

緑 なーんて、あんなのは嘘っぱちだよ。いいかい、葵、人って字は1人の人間が2本の足で必死に立ってるんだよ。一生懸命踏ん張ってたんだ。あなたが今見てるお母さんが、人って字さ。ちゃんと見ておきな。ほら、右足左足交互に見て、右足左足交互に見て。右足左足交互に見て♪右足左足交互に見て、右足左足交互に見て。トントレントンテンテン♪なんつって。

葵 母さん、もう立てないよ。

緑 そんなことはないよ♪夢は諦めなければ叶うさ♪だから右足左足交互に見て♪右足左足交互に見て♪右足左足交互に見て♪見たってなんも変わらないんだよ！

間

緑 ごめん。今なら、なんかいけそうな気がして。なんだか、いけそうな気がするー！あると思います。

葵 ねえよ！てかネタ古すぎ！まじハゲるわ。

緑 ハゲるの？！

葵 ハゲないよ！

緑 どっち？！

葵 ハゲない！

緑 ハゲないのか。

間

葵 …ハゲないわよ。

緑 葵。

葵 なによ？

緑 実はここに10円ハゲできたの。

葵 ヘー。そう。

緑 オノマトペチョップ。

間

緑 葵。

葵 なによ。

緑 お姉さんに連絡しよう。

葵 ……

緑 だから来たんでしょ。

葵 ……まあ。

緑 じゃあ、どうして？

葵 ……

緑 もしかして、車椅子の事もまだ話してないんじゃない？

緑 なんで？家族でしょ。

葵 家族だから知られたくないことだってあるの。

緑 今まで、扶養照介を拒否する人は沢山いました。しかし、生活が苦しくてここに

来てるので最終的には扶養照介します。中には親族から見捨てられて連絡が取れ

ない人もいるけど、でも、心配ないよ。

葵 家族に迷惑だけは掛けたくないの。

緑 迷惑だなんて思わない。

〇二章四話「姉ちゃん」

葵 涙を浮かべる

緑 あ、葵？

緑 葵？大丈夫？ごめんね。

彩 葵！

彩 また泣いてるの？

彩 ほら、お姉ちゃん来たからもう大丈夫。

彩 おい、中坊、あんま調子乗ってつとケツの穴にゴマ油突っこむぞ。

中坊 あ、すいません。

彩 葵、大丈夫大丈夫。

彩 泣かないの、葵。泣くならせめて「ふえーん」って泣きなさい。

葵 ふえーん？

彩 そう、こうやるのよ。ふえーん。

葵 泣き方を変えてみる

葵 ふ、ふえーん。

彩 違う、違う、もっと大胆に。

葵 ふえーん！

彩 ああ、行き過ぎた。そこに少しだけ恥じらい入れてみよう。

葵 ふえーん。

彩 そうそう、そうやって女は生きていくの。

葵 うん！わかった！ふえーん。

彩 ふえーん。

〇二章五話「ふえーん」

葵 母さんが死んでからも、姉さんは「ふえーん」を巧みに利用し、私を育ててくれた。

彩 ふえーん。ふえーん。

男1 おねえさん、どうしたの？

彩 ふえーん。ふえーん。

男1 ほら、泣かないで。お兄さんになにがあったか言っごらん。

彩 オニイサン。イマイクラモツテルノ？

男1 え？

彩 男1の財布を取り出し、中身を見る

彩 シケテルネ。デモシヨカイダカラコレデイイヨ。センエンノコシテアゲルカラ、

コレ、デンシヤダイネ。

男1 あ、はい。

彩 ナカダシシタラ、ケツノアナニゴマアブラツツコンデイイニオイサセテヤルカラ

ナ。

男1 はい！

彩 イクヨ。

葵 私が高校を卒業して1人立ちしてから、姉さんは運命の人と出会ったの。

彩 ふえーん。ふえーん。

男2 おねえさん、どうしたの？

彩 ふえーん。ふえーん。

男2 ほら、泣かないで。お兄さんになにがあったか言っごらん。

彩 オニイサン。イマイクラモツテルノ？

男2 え？

彩 男2の財布を取り出し、中身を見る

彩 シケテルネ。デモシヨカイダカラコレデイイヨ。センエンノコシテアゲルカラ、

コレ、デンシヤダイネ。

男2 ……
彩 ナカダシシタラ、ケツノアナニゴマアブラツツコンデイイニオイサセテヤルカラ
ナ。
男2 ……
彩 イクヨ。
男2 彩を止める
彩 なんだよ、冷やかしだったら用ないんで。
男2 いつからこんなことしてんの？
彩 は？あんたに関係ないでしょ。
男2 関係なくない。
男2 彩を睨んでいる
彩 なによ？
男2 彩を睨んでいる
彩 もう、なに？
男2 僕の瞳に君が映ってるよ。
彩 はあ。
男2 このまま僕の瞳の中で一生暮らしてみないか？
緑 ハゲるー！一瞬辛いと思わせて実は甘い、スイカに塩をかけて食べる原理だー！
男2 会ったばっかのあんたにそんなこと言われても。
男2 地球上に今さ、人口って何人いるか知ってる？73億人いるの。73億人に1人
に1秒しか会わなくても200年かかるの。それを俺達どう？出会って5分以上
経ってる。
男2 君を2番目に幸せにしてあげる。なんで1番目じゃなくて2番目なのかって？だ
って君と出会った僕が一番幸せだから。
葵 お姉ちゃん。
葵 お姉ちゃん！
彩 葵、どうしたの？
葵 ちよっと、話があつて。
彩 なに、どうしたの？
葵 ……やっぱり、いいや。
彩 なによ。
葵 ーん。なんでもない！
彩 そう。
葵 うん。
第二章六話「扶養照介2」
葵 やっぱり言えない。

緑 葵 ・・・
葵 言えないよ。
緑 葵。 やつと、やつと幸せになったの。
緑 葵。 ・・・
葵 母さんが死んで姉さんが1人で私を育ててくれた。 高校も退学して女手1つで私
を育ててくれた。
緑 葵。 そうだったんだ。
葵。 うん。
緑 葵。 でも、1つ聞いて欲しい。
葵 何？
緑 葵。 私は葵じゃないし、葵と同じ人生を過ごしてきた訳でもない。 だから、わかろう
とすることしか出来ない。
葵 何が言いたいの？
緑 葵。 わかろうとしてるんだよ。
葵 泣きそうになる
緑 葵。 苦しいね。
葵。 うるさい。
緑 葵。 辛いね。
葵。 ・・・
緑 葵。 よく来たね。
緑 葵。 書類を取り出す
葵。 書類に記入しようとするが手が震える
葵。 大丈夫かなあ。 嫌われないかなあ。
緑 葵。 大丈夫。
彩 葵。 まてー
男2 彩。 あはははは
彩 彩。 うふふふふ
彩 彩。 ん？なにこれ？
彩 葵。 扶養届け出書？
緑 葵。 改めて、ご説明致します。 扶養照介というのは「あなたの親族が生活保護を申請
してまずけど、援助をお願いしますか？」と文章でお伝えすることです。 お姉さ
んが何かしらの理由があつて「援助できません。」ということであれば、それ以上
は追求しません。
彩 葵。 はい。
葵。

○三章一話「共同生活」

彩 何ですぐ言わなかったの？！

葵 ……

彩 困ったことあったらお姉ちゃんに言えっていったよね。

葵 だって

彩 だってなによ！ゴマ油突っこむわよ！

葵 だって、お姉ちゃんに迷惑かけると思ったから。

彩 葵。

彩 もう、マイシスター超可愛い。禿げる。大丈夫、私に任せて。なんとかするから。でも。

彩 いいから。いいから。

ナレ そういつてお姉ちゃんは私を自宅に連れて行きました。

彩 ただいまー♪

男2 お帰りー♪

彩 あなた、今日はお話があるの。

男2 なんだい、お話って？

彩 私の愛しい妹、葵。

男2 葵ちゃん、久しぶりだねー。

葵 お久しぶりです。

彩 今日から家に住むから、よろしく！

男2 おお、葵ちゃんなら大歓迎だよ。我が家へようこそ。

ナレ こうして私は姉の家でお世話になることになりました。

彩 ちゃんと食べなきゃだめよ。1人の時もちゃんと食べてたの？

葵 食べてたよ。

彩 本当？

男2 そうだよ、葵ちゃん遠慮しないで沢山たべてね。

葵 ありがとうございます。

男2 やっぱり、大勢で食べるご飯はおいしいね。

彩 やだ、いつもよりおいしいと思ったら、そのお陰ね。

ナレ 一か月後。

彩 葵、もうおわり？

葵 あ、もうちよつと

彩 そっか。

ナレ ほんの些細なことです。

男2 ビールもう1本。

彩 自分でとつてよ。

男2 いいじゃん、ついでに。
ナレ 私が生活に加わった事で小さなストレスが少しずつ溜まっていたのです。
彩 それに一日一本以上飲まないで、お願いだから。
男2 いいだろ、1本ぐらい。こっちは疲れてんの。
彩 なにそれ、私は疲れてないみたいない言い方やめてくれない？
男2 もういい。寝る。
ナレ 三ヶ月後。
彩 なに、話って？
男2 おれの給料だってそんなに、多いわけじゃないし、このまま葵ちゃんの面倒を見るのも限界だ。これじゃ子供も産めない。
彩 はあ！じゃあ、なに、葵を見捨てるっていうの？
男2 そんなことは言ってない！
彩 言ってるじゃない！
男2 言ってるじゃない！
彩 言ってるじゃない！
男2 男2・彩 フレンチキスをする
男2 じゃあ、子供はどうする？！
彩 え？
男2 子供だよ。このままじゃ産めないよ。
男2 男2・彩 フレンチキスをする
彩 それは。
男2 お前だって欲しがってたじゃないか。
男2 男2・彩 フレンチキスをする
彩 でも。
葵 お姉ちゃん！ちよつといい？
彩 葵、どうしたの？
葵 わたし、家出しようと思う。
彩 どうして。
葵 んーん、なんとなく。
男2 そんな、無理して出ていくことはないんだよ。
葵 いや、いいんです。今までありがとうございました。
男2 本当に？いいの？
葵 はい。
男2 そっか。葵ちゃんがそう言うなら。本人の意志に任せよう。
男2 男2・葵 キスをする
ナレ 本人の意志に任せよう？

彩 葵。

葵 いいの。じゃあね。

ナレ 走った。とにかく走った。だれもいないところへ。

〇三章二話「診療」

典子 不正受給、不正受給。ほんと、他にやることないのかね。

看護士 及川様ー、及川典子様ー。

典子 はい。

看護士 お待たせしました。こちらへどうぞ。

医者 はい、こんにちは。

典子 こんにちは。

医者 どう、調子は？

典子 お陰様で大分よくなっているかと。

医者 ちょっと診ますね。

医者 ああ、いいですね。でも念のため一応お薬出しておきますね。

典子 はい。

医者 はい、では今日は以上です。お疲れ様でした。

典子 はい、お疲れ様でした。

看護士 それではこちらお薬です

典子 こんなに多くですか？

看護士 はい、念のため。生活保護証明書の提示をお願いします。

典子 はい。

看護士 ありがとうございます。確認致しました。それでは、また来週。

オバサン3 あの人、なんでいつもお金払わないの？

オバサン4 あれよ、生活保護受けてるから。

オバサン3 なに、生活保護って病院タダなの？

オバサン4 そうよ、生活保護。私達の税金で暮らしてんのよ。

オバサン3 頑張ってる働いて年金で暮らしてる私達がバカみたいじゃない。

オバサン3・4 ねー

ナレ このようなことから、病院に行けなくなり、また生活保護を受けること自体が間違っていると考える人が多いです。受給者の現状を知らない表面的なイメージ。

モブ イメージ。

モブ イメージ。

緑 及川さん、どうですか？ハローワーク行きましたか？

典子 行きました。

緑 いいお仕事ありましたか？

典子 1つ。今度面接ある。

緑　　そうですね。よかったですね！応援してます！

典子　　どうなるかわかんないけどね。

緑　　及川さんなら大丈夫ですよ。

典子　　何を根拠に。

緑　　ここから、新しい人生が始まるんですよ！

○三章三話「面接」

面接官1　お名前は？

典子　　お、及川典子です！

面接官2　長所・短所を教えてください

典子　　え、ええと長所は人と、接する、のが得意です。短所は、ありません。

面接官3　仕事にブランクがありますがその理由を教えてください

典子　　それは、その…

面接官4　なぜ以前の職場を辞めてしまったのですか？

典子　　えーと。それは。

面接官1　どうしました？

典子　　見てる。見てる。私を見てる。止めて。止めて。

面接官2　大丈夫ですか？

面接官3　緊張してる？

面接官4　お水飲む？

面接官1　どうしました？

面接官2　大丈夫ですか？

面接官3　緊張してる

面接官4　お水飲む？

面接官1　どうしました？

面接官2　大丈夫ですか？

面接官3　緊張してる？

面接官4　お水飲む？

面接官1　どうしました？

典子　　見ないで！

面接官一同　ありがとうございます。お気をつけてお帰り下さい。

○三章四話「仕事」

理恵　　いらっしやいませー、どうぞー、御覧くださいー。いらっしやいませー。

そのスカート気になっちゃう感じですか？今日入ってきたばっかりなんですよー。

試着してみる？かしこまりー。

理恵　　お客様ー、開けちゃって大丈夫ですかー？

理恵　　かわいい！

理恵 かわいい！
 理恵 え、見たい、もう全部見たい。
 理恵 かわいいー！このスカートこんなに可愛くなるなんて。知らなかった私。
 理恵 写真撮ってもいいですか？失礼します。
 理恵 うわ、連射してた私。すいません。
 理恵 え？うそ？全部かわいい。ハゲる。
 理恵 え？お買い上げですか？ありがとうございます！
 理恵 ・キャベツ200g・枝豆150g、お皿は2枚重ねる・チャンジャ40g、大葉の上に載せる、お皿は1枚・キュウリ120g、キュウリのタレ5グラム
 理恵 は、はい。
 理恵 緊張し、そわそわしている
 理恵 はいよー！・・・お皿、お皿。
 理恵 お皿は重ねる。150g。よし。枝豆お願いします！
 理恵 え？お皿違いました？すいません。
 理恵 あのー、枝豆のお皿ってどれでしたっけ？
 理恵 すいません。メモが追い付かなくて。
 理恵 いや、そういうわけじゃ。
 理恵 はい。覚えます。
 理恵 g数とか、必要なことを、メモ、してる、つもりです。
 理恵 はい。
 理恵 見て、覚えます。はい、がんばります。
 理恵 はい、ありがとうございます。お先に休憩頂きます。
 理恵 朝10時起床 11時〜20時までアパレル店へ勤務
 理恵 22時〜朝4時まで 居酒屋勤務 朝5時帰宅 朝6時就寝
 囁き1 あんたのせいよ。
 囁き2 あんたのせいでこんなことに。
 理恵 違う。
 囁き3 私の人生もうおしまい。

理恵 違う違う違う！

様々なニュアンスで

囁き1 違わない。

囁き2 違わない。

囁き3 違わない。

囁き1 交通事故を起こしたのは確かに私が悪い。ワタシガ、ワルイ。けど、ずっと？ず

っと罪悪感をもって、ごめんなさい。ごめんなさい。と誤り続けて自分の時間を
全てあなたに費やさなければならぬの私。私あなたのために生まれてきたの？

私。

理恵 ……

囁き1 どうなの私？

囁き2・3 私？

理恵 私は…

葵 やっぱりそう思ってるんだ。

理恵 え？

葵 やっぱりそう思ってるんだ。

○三章五話「ひとりぼっち」

葵 1人で生活出来るようになったんですね。よかった。

ちゃんと食べなきゃだめよ。1人の時もちゃんと食べてたの？

私達としては1人でも多く自立して頂く事が仕事なんです。

葵 どんな気持ち？って聞かれても

うまく答えられないけど

少なくとも悲しくなんてない

生まれた時もきつとそう

くたばる時もきつとそう

命の底から駆け抜けようとする時

きつと 人は誰もが

石ころみたいにひとりぼっち

あの瞬間を思い描きながら

その瞬間を思い描きながら

毎日を命の底から

命の底から駆け抜けるんだ

石ころみたいにひとりぼっちで、命の底から駆け抜けるんだ

生活保護の申請をお願いします。

葵

おしまい